

今期売上高 8%増目指す 営業利益は過去最高に

2017年度の売上高を前年度比8%増の315億円に高める。販売銅量は同5%増が目

標。汎用線事業は下期からの建設関連需要の回復を受けて増収。機能線事業は建設向け需要の改善による配電盤向けの拡大に加えて太陽光発電向けの需要にも期待している。営業利益は販売量の拡大に加えて、生産性の向上

や間接部門の業務効率化で引き続き過去最高を狙う。16年度の売上高は290億円で同5%減。出荷銅量は前年度並みになると見込んでいる。ただ付加価値の高い機能線事業が伸びたことなどで営業利益は

同4倍に拡大し過去最高の見通し。汎用線事業の売上高は約140億円で同約1割減。出荷銅量は同約3%減の見込み。建設現場の人手不足が電線需要を抑制したことなどが影響。機能線事業は売上高が同4%増の150

億円に増加。出荷銅量は7%増える見込み。配電盤向けの建設関連需要の回復でニーズが増えるほか、新製品を投入して拡大させる考え。太陽光発電関連の需要にも引き続き期待している。今年度は汎用線事業の売上高は156億円で同12%増、出荷銅量は4%増で計画。下期から東京五輪や首都圏再開発などによる需要拡大を期待している。機能線事業の売上高は159億円で同5%

増、出荷銅量は7%増を目指している。配電盤向けは建設関連需要の回復でニーズが増えるほか、新製品を投入して拡大させる考え。太陽光発電関連の需要にも引き続き期待している。製造効率のアップでは九州と平塚の両工場で10%、北陸と栃木では5%生産性を向上。併せて本社や工場の間接部門では17年度末までに2割の業務効率アップを目指す。

